



# 県駅本体工事は 年内に着手方針

建設促進県協議会でJR

JR東海は9日、飯田市に造るリニア中央新幹線の長野県駅(仮称)の本体工事について、年内に着手する方針を明らかにした。同市の飯田合同庁舎で開かれた



リニア中央新幹線建設促進県協議会(会長・阿部守一知事)の総会で水野孝則副社長(写真右)が説明した。県駅工区は2022年12月に起工式が開かれたが、用地取得や埋蔵文化財調査などが遅れているため、これまでに着手したのは駅東側の土曾川橋りょうと水路の付け替えにとどまる。JRは今年6月に開いた地元地区との懇談会で工期を31年末までとする方針を示していた。

総会には、阿部知事や関

係市町村長、JR関係者ら95人が出席。JRに対して開業時期の明確化や、県駅に1時間に上下各複数本を停車させること、残土置き場の早期決定などを求める8項目の要望を決議した。

飯田市の佐藤健市長は、市が整備を進める駅前広場について「開業を待たず一部供用できるように進める」との考えを改めて示した。その上で、リニア開業時に駅構内に設置される見込みだったトイレや案内、飲食施設の整備も県駅工事の遅れで先延ばしになるとの見方を示し、「代わりの施設を造らなくては。その事業にはJRに関わっていたいただき」と求めた。(長崎光希)